**令和元年度　第2回　品川区地域自立支援協議会議事要旨**

〇日時：令和元年9月5日（木）午後3時～5時

〇会場：荏原第五区民集会所　第１集会室

〇出席者数：18人

〇欠席者数：10人

【議題】

**報告事項1**

**障害児者の相談支援体制整備促進事業等に係る事業者の選定について**

（松山障害者福祉課長より、資料1を用いて説明）

【委員からの質疑・意見】

〇質問

　・選定された事業所を教えていただきたい。

　・障害のある方のケアマネジメントについて、介護保険優先はあるが、障害分野の整理について、方針を明確にしてほしい。

〇事務局からの説明

　・１つは中延在宅介護支援センター、もう１つは東品川在宅介護支援センターである。

　・障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行については、区としても課題と思っているので、そこを解決するために障害者専門の相談員を置くことにした。

〇質問

　・６事業者の開設時期は概ね１０月という話があったが、大体同じ時期になるのか。それとも時期はばらばらになるのか教えてほしい。

〇事務局からの説明

　・開設の時期は、それぞれの事業所の事情によって変わるので、１０月以降、今年度いっぱいの間に開設ということになる。

〇意見

　・指定特定相談支援事業所が増えることは、期待感も含め喜ばしいことだと思う。また、精神障害を対象にしている事業所、高齢のことに詳しい事業所、児童を対象にしている事業所が増えるということでうれしく思っている。ただし、事業所が増えてよかったということではなくて、相談支援体制の整備を目的とした事業所なので、基幹相談支援センター、地域拠点相談支援センター、指定特定相談支援事業所の３つが整備されることで強固な相談支援体制をつくっていきたいという希望がある。

**報告事項2**

**相談支援部会・子ども支援部会での検討事項について**

（荒川障害者相談支援担当より、資料2-1を用いて説明）

【委員からの質疑・意見】

〇意見

　・相談部会から資料提示いただき、２回にわたって意見を述べてきた。

　　また、昨年度の地域自立支援協議会でも、冊子を持ってきて、相談支援専門員のマニュアルは多くのものが発刊されているので、そういうものではなく、品川区で相談支援事業を進める上で、どういった手順でどういったものが必要なのかということがわかるものが欲しいという話をした記憶がある。

　　今後、相談支援専門員が使うもの、ご利用者が相談支援事業を知るためのもの、両方必要になってくるのではないかと思っている。

〇事務局からの説明

　・このマニュアルは、あくまで相談員がどういう視点に立ってやっていけばいいかというのを相談部会で各拠点の意見を聞きながら作成したいと思う。

〇意見

　・一人ひとりの相談員が手引書にして、ハンドブックのように携えて仕事をしていくよりどころになると思う。

　　ただし、土台となる相談支援専門員の姿勢や理念というのは外さずにいれてほしい。

〇質問

　・在宅介護支援センターに併設した相談支援事業所の選定はモデル事業ということでいいのか。

　・介護保険制度と障害サービスの適用関係について、どういう方法で連携をとったらいいのか、そこを考えるモデルという考えでよいのか確認したい。

〇事務局からの説明

　・在宅介護支援センターに併設される事業所については、障害福祉サービスから介護保険に移行するときの連携について課題だと認識しているので、モデルとして実施していく。

〇会長からの意見

　・３０年から共生型サービスも始まって、相談支援専門員とケアマネジャーの連携やスムーズなケースの移行が非常におおきな課題で、まずパイロット的に行われながらそこでデータを出して、どんなふうに課題を解決していくかということをやっていけばそれが広まっていく手順になるのかと思う。

（平地障害者相談支援担当より、資料2-2を用いて説明）

【委員からの質疑・意見】

〇会長からの意見

　・子ども部会で話し合われたこと、虐待などを通じてご家族をどのように支援していくかということは大切な観点で、子ども部会で話題になっていて、児童発達支援事業所一覧のような、目で見てわかると、どのようなところにどのような事業所があってということも含めて、こういうものを普及させていきたいということで、大変いい試みなので、色々なものを用意しながら情報提供をしてほしい。

〇事務局からの説明

　・大人版も同じような形で、進めていく予定である。

**報告事項3**

**平成30年度品川区障害者福祉計画の実績について**

（築山障害者施策推進担当課長より、資料3を用いて説明）

【委員からの質疑・意見】

〇質問・意見

　・実績がわかりやすくグラフで示されているが、放課後等ディ、移動支援、就労移行支援、相談支援事業が右肩上がりで予想値も実績も含めて伸びている。計画相談が増えて、障害者手帳もどの障害も増えているなかで、訪問系サービスが減ってきている。事業所が増えないから時間数も増えていかない実態があると思う。このことは、目先も問題であるが、何年先かも含めて問題だと思っている。何か手を打っていかないと、サービスは必要だけれども、サービスが得られないという状況が、どんどん進んでいくと思う。

　　法定事業だけでなく、区の地域生活支援事業にもある巡回入浴という事業もとても大事な事業である。重度の方が病院等から家に戻る、高次脳機能障害や半身麻痺等を罹患した人たちが早期にご自宅に、医療から在宅生活に戻っていく中で、どうしても入浴ということがネックになってくる。そういうことが、この表からも読み取れると思うので、何らかの対策をしていったほうがいいのではないかと思う。

〇事務局からの説明

　・在宅生活を支えるためのサービスや地域生活のために必要なサービスはとても大事だと思っているので、引き続き事業所の誘致や品川区に多くの事業所が増えるよう努めていきたいと思う。

○会長からの意見

　・移動支援は実績も、あるいは見込みも含めて多いところだが、これは移動支援事業所が確保されていることとして捉えていいのか。

○意見

　・２９年度末に、区で事業所を集めて移動支援をやってほしいという説明会等を積極的に開いている。その結果、他区の事業所も参入する中で、移動支援をする事業所が実際に増えている。提供体が増えたからサービス実績も増えている。同じように重度訪問介護、身体介護、家事援助もそういう形で事業所が増えれば、サービス実績も増えていくと思う。

○会長からの意見

　・相談支援事業所が増え、計画相談が増えても、サービス提供事業所が増えないと空回りしてしまうので、行政がリードして増やしていくようにしてほしい。

〇意見

　・医療のサービスが必要な方が通える施設を増やしていってほしい。外出をすると本人のレベルも刺激を受けて上がってくることがある。

〇意見

　・地域移行支援の実績が伸びてきているので、グループホームの増設を今後もお願いしたい。

〇会長からの質問

　・精神障害の方の地域生活支援や地域移行を含めて地域包括ケアという概念も出てきたが、精神障害の分科会はあるのか。

〇意見

　・年間４回ほど、昨年は６回だが開催している。

〇会長からの意見

　・そこで話し合ったことを地域自立支援協議会にも出して、長期的な観点から、一歩ずつ進めていきたいと思う。

〇意見

　・障害の分野は、行政の役割として今後必要と思うサービスの供給量を増やすための工夫をしていく必要がある。

　・介護では、相談事業所にヘルパーステーション併設というのがあるが、障害もそういう部分の強化が必要かと考える。

　・サービスの担い手がNPOで頑張っているところがあるが、結構お年を重ねられていて、後進を育てる、支えていくことを考えていかないと、なかなか担い手が増えないかと思う。

　・知的障害児で、特異な能力を持っている人がいるが、そういうような能力を少しでも生かしていけるような事業体があってもいいのではないかと思う。

〇意見

　・重度訪問介護は、実績が増えておらず、この原因は事業所側から考えると単価が結構低いかと思う。

　・サービスの担い手は、若い人がおらず高齢の方が多い。若い人はすぐに辞めてしまうので、何か対策がないかと思っている。

　・介護保険に移行すると、重度訪問介護を受けている方は、サービス量が多いので自己負担が増えてしまう。半分は介護保険、もう半分は重度訪問介護というようにやっているところがあるが、品川区の場合はどうなっているか。そういうことがわかっていれば、利用者に説明でき、重度訪問介護を伸ばしていけると思う。

〇事務局からの説明

　・必要なサービスは、事業所を誘致して、多くサービス提供できるように努めていきたい。また、担い手の部分も区でどういう支援ができるのか考えていきたい。

　・介護保険への移行に関する自己負担の問題については、この後の報告の実態・意向調査の実施のほうで１つのテーマとして掲げて調査をしたいと思う。

〇意見

　・グループホームは知的についても足りていない。若い人が入れず、親御さんが亡くなったり、ある程度年齢がいかいないと入れない現状がある。区にはグループホームをつくってほしいと思う。

　・また大人の日中一時支援を考えてやってほしい。人口が４０万人を超え、増えた分だけ施設も増やしていく必要がある。

**報告事項4**

**品川区障害福祉計画および障害児福祉計画策定のための実態・意向調査の実施について**

（築山障害者施策推進担当課長より、資料4を用いて説明）

【委員からの質疑・意見】

〇意見

　・重心や医療的ケアが必要な方に対する対応策を検討してほしい。

〇質問

　・医療的ケアの子供が学校に入るときに、なかなか受け入れてもらえないという相談が

多い。看護師派遣というものを文部科学省で進めているが、障害福祉とどのような関

連があるのか教えてほしい。

〇会長からの意見

　・福祉にとっては、学校教育とどのように連携しながらスムーズにつなげるかということがある。もしそこに課題があるのなら、それが抽出できるような質問項目が欲しい。

〇質問

　・意向調査は親が書くが、親のいない方に届いた場合は、その支援者の方に書いてもらう形になるのか。

〇事務局からの説明

　・親や支援者の方も想定しています。またご本人でも回答できるように、ルビを振って、もう少し自由意見欄、その他を大きくするなどして、わかりやすいような工夫をして送付したいと思う。

〇意見

　・区の文章はかたいものが多いので、障害のある人が理解できるようわかりやすくしてほしい。

　・新施設について何か愛称をつけてほしい。

　・これからつくるパンフレットも、わかりやすい言葉でつくってほしい。

〇質問

　・回答のやり方で、インターネット配信はやるのか。

〇事務局からの説明

　・一斉に郵送を考えているが、個別的な対応ということで、できる範囲で行いたいと思う。

**その他**

**品川区立障害児者総合支援施設の開設について**

（築山障害者施策推進担当課長より、施設開設について説明）

【委員からの質疑・意見】

〇意見

　・八潮の仮施設に通っている方で、生活介護と就労支援B型の延長支援について相談が

あり、区で運営法人と検討中かと思うが、利用者に不安を与えないような対応をお願

いしたい。

〇事務局からの説明

　・運営の細かい部分については、運営法人と協議し進めている。ただし、職員体制などで段階的に進めていかなければならない部分があるが、利用者への支援が困らないように、運営法人と協力していい施設運営ができるようにと考えている。

全体を通して

〇意見

　・９月２日に東京都の自立支援協議会の交流会があったが、区の方からだれか出たのか

どうか。こういうものに出て、他の地域の実情というものをきちんと知ってほしい。

　・品川福祉カレッジの行動支援研修は３年続けてやっていたのに、今年度は無くなって

しまった。人材育成にもっと力を入れてやっていかないと、立ちいかなくなってしま

と思う。

〇事務局からの説明

　・９月２日には出席していないが、２３区内で連絡会はやっているので、出られる限り

出席していきたいと思う。

　・品川福祉カレッジについても介護学校と連携しながら、どうしたら区内の障害福祉サ

ービス事業者を含めてスキルを向上させていけるかというところで、事業者の声も聞

きながら考えていきたい。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上